

【基盤研究(S)】

人文社会系 (人文学)



研究課題名 ○S型言語の文処理メカニズムに関するフィールド言語認知脳科学的研究

東北大学・大学院文学研究科・准教授

こいずみ まさとし
小泉 政利

研究分野：言語学

キーワード：言語学、外国語、実験系心理学、認知科学、神経科学、カクチケル・マヤ語

【研究の背景・目的】

日本語や英語など多くの言語の理解（聞く、読む）や産出（話す、書く）の際に、主語（S）が目的語（O）に先行する語順（SO語順=SOV, SVO, VSO）のほうが、主語が目的語に後続する語順（OS語順=OSV, OVS, VOS）よりも処理負荷が低く母語話者に好まれる傾向があることが知られている（SO語順選好）（図1参照）。

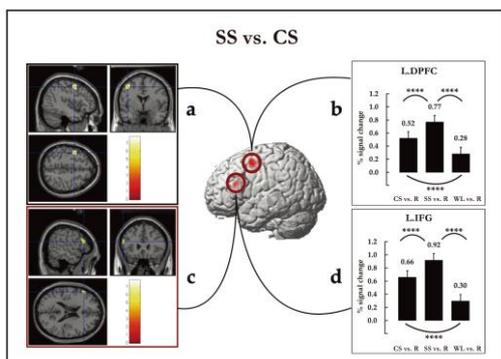


図1：語順による文処理負荷の違い
(Kim, Koizumi, et al. 2009)

従来の文処理研究は全て英語のようにSO語順を基本語順にもつSO型言語を対象にしているため、SO語順選好が個別言語の基本語順を反映したものなのか、あるいは人間のより普遍的な認知特性を反映したものなのか分からない。この2つの要因の影響を峻別するためにはOS語順を基本語順に持つOS型言語で検証を行う必要がある。

【研究の方法】

そこで、本研究では、VOS語順を基本語順にもつカクチケル語（中米グアテマラで話されているマヤ諸語のひとつ）の理解と産出のメカニズムならびにその獲得の過程を、フィールド言語学、理論言語学、実験心理学、および脳科学の知見を結集した「フィールド言語認知脳科学」の手法によって、多角的かつ統合的に検証し、語順選好の背後にある要因を明らかにして、言語を司る認知機構の解明に貢献する。

【期待される成果と意義】

本研究から次のような成果と意義が期待される。

- (1) 言語能力の解明：
SO型言語の特性に偏向した既存の理論を是正し、言語を司る認知機構の解明に貢献する。
- (2) 言語進化の研究に貢献：
言語の普遍性と個別性の追求を通じて、近年新しい展開を見せている言語の起源・進化の研究への貢献も期待できる。
- (3) 言語と文化の多様性の確保・促進：
絶滅が危惧される少数民族言語の保存や文化の多様性の確保・促進に繋がる。
- (4) 「フィールド言語認知脳科学」研究分野創出：
国際的に活躍する研究者集団が、少数民族言語を、最先端の実験手法を使って多角的に研究する、「フィールド言語認知脳科学」研究分野の創出に繋がる。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- Koizumi, M., and K. Tamaoka. (2010) Psycholinguistic evidence for the VP-internal subject position in Japanese. To appear in *Linguistic Inquiry* 41(4).
- Kim, J., M. Koizumi, 他 10 名. (2009) Scrambling effects on the processing of Japanese sentences: An fMRI study. *Journal of Neurolinguistics* 22, 151-166.
- Tamaoka, K., H. Sakai, J. Kawahara, Y. Miyaoka, H. Lim, and M. Koizumi. (2005) Priority information used for the processing of Japanese sentences: Thematic roles, case particles or grammatical functions? *Journal of Psycholinguistic Research* 34, 273-324.

【研究期間と研究経費】

平成22年度－26年度
166,100千円

【ホームページ等】

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/~koizumi/>